



消費者に美味しいと選ばれる 博多和牛ブランドの浸透を目指して

肥育牛経営 梅満町 浅野 晃さん(31歳) 涼子さん(28歳)

1,700頭の牛に囲まれて

浅野晃さんは生後8〜10ヶ月の子牛を仕入れ、約20ヶ月間育て、食用用牛として出荷する肥育牛経営を行っています。小さい頃から周りに牛がいる環境で育つたという晃さんは、高校に入るころには就農を意識しはじめ、現場実習や農業者大学校での勉強を経て就農しました。

迷子になるほど広い畜舎で約1,700頭の牛が育てられています。隅々まで管理の行き届いた畜舎は、きれいに管理されており、排泄物の臭いなどはほとんど気になりません。**博多和牛ブランドの浸透を目指して**

「消費者の皆さんに美味しく食べてもらえるように大切に育てている。」と話す晃さんが育てた牛の枝肉は、福岡県内の和牛の部で金賞に選ばれるなど高い評価を受けています。

肥育牛経営を行っている若手農業者が少ない中、「休みは取れないが、好きでしているからあまり苦労は感じない。」と話す晃さんは更なる規模拡大を計画しており、国内だけでなく海外への販売も開始しているという博多和牛の生産拡大と、美味しさを多くの人に伝えることで、博多和牛ブランドの浸透を目指しています。

夫婦で別経営

実家が肥育牛経営を行っているという涼子さんは自身で牛を所有し、夫婦で別経営していくことを目指しており、「晃さんに負けないように肥育頭数を増やしていきたい。」と目標を語ります。嬉しさも悲しさも共有できることが夫婦で仕事をすると良さだと語るお二人は、力を合わせつつ、それぞれの経営発展に向けて頑張っています。

